

白石中

ジャージーの色 男女統一



これがイチオシ

警察と連携し防犯活動

白石中では生活委員会が主体のPSC活動が活発です。「Police (警察)」「Student (生徒)」「Cooperation (協力・協同)」の頭文字で、警察と連携し防犯活動を行っています。2006年に始まり、16年目を迎えています。

毎月10日には「いじめゼロ」を呼び掛けています。ピンクのTシャツを着た男子生徒がいじめにあったカナダで始まった運動にならない、生活委員がピンクのTシャツ姿で活動し、白石市からいじめをなくそうと考えています。

学校名 白石市立白石中学校
所在地 白石市南町1の2の79
創立 1947年
電話 0224(25)3363
校長 樋口 英明
生徒 375人

白石中学校の生徒会は世界で取り組まれているSDGs (国連の持続可能な開発目標) について考えて活動しています。本校では長く、ジャージーが男子は水色、女子はピンク色と区別されてきました。しかし、それではSDGsのジェンダーフリーの観点に合いません。

そこで生徒会執行部が協議し、全校生徒や来年度入学予定の1年生の保護者にアンケートを実施しました。その結果を基に、生徒代表が話し合っって色を統一することに決まりました。それが写真にあるデザインです。生徒会は「当たり前」の基準が高い学校を創ることを目指しています。「時間を意識し自律的に行動する」「その場に合った身だしなみを意識する」「元氣なあいさつをする」などを心がけていきます。あいさつ運動にも一段と力を入れます。多様な意見を生徒会活動に反映させるため、タブレットを活用したアンケート方法も考えています。紙の使用を削減しながら、より良い生徒会活動を目指します。



男女による色の区別をなくしたジャージー

編集委員 一條宇功、大橋佳帆子、舟山遼介 (2年) 佐藤輝 (1年)
指導教員 高橋錬

生徒会がSDGs実践

わが校わがまち スクール通信



今回は 3月20日に掲載します
一迫小 (栗原市)
新月中 (気仙沼市)

地元の祭りで踊りや太鼓

東二番丁小

熱い思い代々受け継ぐ



これがイチオシ

仙台七夕参加を誇りに

東二番丁小では毎年、全校児童が七夕飾りを作っています。仙台市内にある鳴海屋紙商事さんが作り方を教えてくれます。私たちは1年生の時から学んできました。

作った飾りは商店街のご厚意で、仙台七夕まつりに飾らせていただきます。私たちの飾りが「飾り付け審査」で賞を取ったこともあります。全国的に有名な仙台七夕に参加できていることは私たちの誇りです。教えてもらった技術と伝統をこれからも受け継いでいきます。

学校名 仙台市立東二番丁小学校
所在地 仙台市青葉区一番町2の1の4
創立 1873年
電話 022(222)6279
校長 堤 英俊
児童 161人

私たちが通う東二番丁小学校は仙台市の中心部に位置しています。積極的に地域の行事にも参加している、地域とつながりの深い学校でもあります。

夏休みには地元で開催される三社祭と三瀧山不動院の奉納夏祭り、1、3年生はまず踊りを、4、5年生はぶち合わせ太鼓を披露していただきました。夏休み前に学年合同で教え合いながら練習し、技術だけでなく、東二小に伝わる熱い思いを受け継いできました。新型コロナウイルスが流行してからは、地域の行事には参加できなくなりましたが、十分に感染対策をしながら、1年生は2年生と3年生に、4年生は5年生に教えてもらい、学習発表会や運動会で発表を続けています。このため今も、たくさんの児童がまず踊りを踊ったり、ぶち合わせ太鼓をたたいたりできます。このコロナ禍でも、先輩たちが伝え続けてきた技術や、東二小への思いを途絶えさせることなく、これからもしっかりと受け継いでいきたいと思えます。



コロナ禍前の三社祭で、ぶち合わせ太鼓をたたく子どもたち

編集委員 福井悠生、高橋澤、乾秋成、服部美弥 (6年)
指導教員 渡辺純、田口彩